

令和7年度学校自己評価及び学校関係者評価表

学校名：武蔵村山市立第三中学校 校長名：飯星 健司

【経営理念】
① 生徒一人一人を大切にす
② 生徒の良さ、可能性を伸ばす
③ 教師の持ち味を生かし、保護者・地域から信頼される学校づくりを進める

評価	
A	十分に達成している。(80%以上)
B	概ね達成している。(60%以上)
C	あまり十分でない。(40%以上)

【学校運営協議会・会長 鎌田 伸一】
学校運営協議会（学校評価分）
第1回 令和7年 6月14日（土）
第2回 令和7年12月12日（金）
第3回 令和8年 2月 6日（金）

※ 到達度 = 達成値 / 目標値

項目	計画・取組			自己評価（令和7年12月12日現在）			学校関係者評価		
	重点目標	具体的取組	評価指標・目標値	到達度(%)	評価	分析コメント	今後の改善方策	意見	評価
確かな学力の向上	【中期】生徒の基礎学力の定着と向上を図る	・タブレット端末を効果的に活用し、主体的な学びの充実と確かな学力の育成を図る。 ・補充的学習（地域未来塾等）の実施。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。	111	A	・ICT機器の活用を意識した授業を教員一人一人が意識したこともあり、「授業が分かりやすいと考えている生徒」が全体で90%以上いる。 ・市学力調査において、2年生の平均正答率は昨年度(中1)よりも6.9%上がった。	・デジタル教科書やICTツールを効果的に活用し学習の効率化を図る。また、個別最適な学びの実現のために生徒一人一人に応じた学習課題の提示などをすすめ、グループ学習等においても協力的な学びをすすめる。また、地域未来塾や補習等も継続して実施していく。	一人1台のタブレット端末の活用が生かされていると思われる。定期考査前の質問教室の来室状況等も知りたい。	A
	【中期】家庭学習の習慣化と定着を図る	・家庭学習の計画を立てさせ、学習習慣を身に付けさせる。 ・タブレット端末等で学習環境を整える。	【全校共通】市学力調査にて、(小5・中2)の平均正答率が同一学習集団の前年度値(小4・中1時)を上回っている。	80	A	・家庭学習を1時間以上行っている生徒は1年40%、2年28%、3年70%と昨年度の調査よりも低下している。 ・家庭でタブレット端末を使用して学習した割合は3年生では76%となり、家庭での活用も増えている。 ・生活時程を整理したことで、朝読書の習慣がより定着した。 ・社会科を中心にNIE教育を推進し、新聞づくりや新聞投稿を行った。新聞投稿者は20名と昨年度よりも減少した。	・「新三中スタンダード」の定着を図り、教師の指導力を向上させるとともに、学びのサイクルとして、家庭学習を習慣化させる。また、週末課題等においてeライブラリー等のネット学習を活用し、学習ログを双方向で共有することにより生徒一人一人の理解度に応じた指導を生かす。 ・朝読書、NIE教育をさらに推進していく。	家庭学習の定着のため努力していることがうかがえる。更なる啓発を期待する。多くの生徒が朝読書に取り組んでおり、家庭でも本や新聞を読む習慣が身に付くと良い。読書、NIEへの取組は読書力を高め、社会性を身に付けるうえでも強く必要であるため継続を望みます。	A
	【中期】読書活動とNIE教育を推進し、言語能力向上を図る	・朝学活前に朝読書を行う。また、図書委員会を中心に、読書啓発を行う。 ・社会科を中心にNIEを実施する。	年間読書の冊数を平均3冊以上 新聞投稿者が前年度(42名)以上						
豊かな心の育成	【中期】いじめ撲滅への取組	・年3回いじめに関するアンケートやいじめに関する授業の実施。 ・SNSに関するトラブルの未然防止のため、情報モラル教育を行う。	生徒、保護者によるアンケートで安心して登校できるが90%以上	94	A	・年3回いじめのアンケートや担任を中心とする見守り等の取組の効果が、生徒・保護者とも安全・安心に学校生活を送ることができると感じている。 ・SNSを通じた諸問題を、セーフティ教室等の授業で注意・喚起するなど、生徒の情報リテラシーを高めることができている。	・今後もいじめアンケートを定期的実施し、二者面談を行うなどして、いじめのサインを見逃さず教員間で情報を共有し組織的に迅速・的確に対応する。 ・教員の人権意識向上と「いじめの対応」、「体罰防止」の研修会を継続して実施し、教員の意識向上を図る。 ・SNSなどの使用方法等、情報に関する教員側の知識のアップデートを行っていく。	教育目標の一つである「思いやる三中」の実現のために様々な取り組みが行われている。SNS世界での生徒間のやり取りは表面化しにくいので対応の難しさを察するに余りあるところではあります。深刻な状況に発展しないよう今後も早期発見・早期対応努力をお願いします。	B
	【中期】特別な支援を要する生徒への対応	・SC、SSW等と協働し、教育相談を充実させる ・サポート教室の充実とチャレンジクラスの開室、充実を図り、不登校を減少させる。	教員アンケートや対象の生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上 不登校出現率が前年度以下	112	A	・チャレンジクラスを除く不登校出現率が前年よりも低下している。 ・年間3回のSOSの出し方授業やSCによるストレスマネジメント授業を行うことにより「安心して過ごせる学校」への肯定的な割合が生徒・保護者共に80%以上であった。 ・3名のSC、SSW、サポート教室、チャレンジクラス担任を含めた教育相談委員会を週1回実施し、配慮が必要な生徒の情報を共有し、対策を講じている。 ・すすんであいさつをするという生徒割合が90%以上であった。	・今後もSOSの出し方授業を年3回実施し、必要に応じて二者面談等を実施する。また、家庭・地域と連携し、不登校出現率を減少させる。 ・今後も教育相談委員会を軸とし、校内別室の利用等を検討し、配慮が必要な生徒への手立てを共有化する。 ・生徒会や委員会活動を活性化させ、あいさつやマナーについて生徒に考えさせる指導を継続して行う。	・チャレンジクラスの開設等、きめ細やかな支援を行っている。先生方が学級運営に苦慮することなく生徒と共に学校生活を送れるテクニックを心身両面から習得できる機会を得られることはとても良いと思います。 ・3年生の面接訓練などは、引き続き、継続してやって欲しい。	B
	【短期】あいさつの励行と礼儀・マナー等の向上	・市の礼儀読本の活用やあいさつ運動等を行い、礼儀やマナーを身に付けさせる。	学校評価アンケートで肯定的な回答が80%以上						
健やかな体の育成	【中期】基礎体力の向上を図る	・体育の授業時における基礎体力づくりやミニオリンピック(年5回以上)の実施。 ・栄村駅伝や市の駅伝大会等への参加。	【全校共通】全国体力・運動能力、運動習慣等調査(小5・中2)において総合評価「C」以上の割合が60%以上又は総合評価「C」以上の割合が令和6年度調査との比較で向上している。	120	A	・全国体力・運動能力、運動習慣等調査において総合評価C以上の生徒の割合が男子61.7%、女子82.7%となっている。 ・市の駅伝競走大会に本校より9チーム出場し、上位入賞したチームもあった。	・今後も保健体育科の授業における基礎体力づくりやミニオリンピックの取組を継続していく。 ・今後も市の駅伝競走大会にも積極的に参加していく。	市の駅伝大会へ積極的に参加している。運動会、ミニオリンピック等各種イベントを展開している。三学年通して大多数の生徒が運動に意欲を持って取り組んでいて基礎体力も付いているかと思っています。	A
	【短期】食育を推進し、健康に過ごす意識の向上を図る	・「弁当の日」や「食育の日」、「マナー講座」を実施し、食育を推進する。 ・昼の放送による食材等の紹介	生徒、保護者アンケートで肯定的な回答が80%以上	110	A	・「弁当の日」で生徒は弁当づくりに積極的になり、食育講演会を実施することで、生徒の食に対する意識と理解が深まった。 ・「食育講演会」で「食でカラダもココロも健康に」をテーマに成長期に必要な食事の知識を身に付けさせることで、生徒の意識が高まった。 ・放送での食材や食文化の紹介を放送し、給食への関心を高めた。	・次年度も食育に対する学習も行うことでより一層の理解を深めるようにする。 ・給食の残食減少をテーマにし、生徒会や給食委員会を活性化させる。	弁当作り、食育の講演会の実施等、食の大切さを伝える取り組みをしている。「食育の日」は講演会や座学だけではなくクイズやオリエンテーリングなども興味をもってもらえるのではないだろうか。	B
まちづくり学習の充実	【中期】全学年でゼロカーボン学習を推進し、環境保全の意識を高め、実践する。	・各学年行事でゼロカーボン学習の取組を行う。(1年：川越体験学習、2年：東京体験学習、3年：修学旅行等) ・長期休業日を生かし、全学年でCO ₂ 削減の取組を行う。	【全校共通】学校評価アンケートの「学校は『まちづくり学習』を通して、自ら課題を設定して解決への見通しを考えた、考えたことを発表したりする学習を推進している。」の項目について、肯定的な回答を70%以上	106	A	・まちづくり学習として「ゼロカーボン学習」を行っていることが生徒、保護者、地域に浸透してきた。 ・まちづくり学習に絡めて「平和学習」や「海洋学習」に取り組んできた。 ・学年による系統的、教科横断的な指導の工夫が必要である。	・ゼロカーボン学習を学校だけでなく、地域とも連携しながら推進していく。 ・系統的な指導や教科横断的な指導の工夫について研究・IT委員会を中心にまとめていく。 ・学習した事を地域へ伝えていく方法を検討していく。	部活動、投稿、コンテスト等での活躍が顕著である。ゼロカーボンの取組は、将来を見据えた視点の醸成につながる。	A
	【短期】市内・保護者・地域へ取組を周知する	・学級・学年発表を保護者・地域へ学校・学年だより等で発信し、その取組を周知する。	保護者、地域アンケートで肯定的な回答が80%以上	104	A	・Xで学校での活動等を発信した。また、校支援アプリ等で学級だよりや学年だより等を発信できた。	・今後もホームページやX、校支援アプリ等を活用し学校の情報を発信していく。また、地域との協働活動により学校の取組を周知していく。	学校だよりを地域展開しており、積極的に地域の参加、協力を促している。また、学校公開や道徳授業地区公開講座等においても地域への発信を行っており、学校と共に地域の子どもたちを支えられている。	A
学校裁量	【短期】小中一貫教育の推進	・校区合同研修会を年間2回開催し、2学期に研究授業と協議会を実施。 ・「ふれあいフェスティバル」やキャリア教育交流を実施し、地域と児童・生徒の交流を図る。	教員、生徒アンケートで肯定的な回答が90%以上	74	B	・校区合同研修会を実施し、校区の課題について意見交換を行った。また、小中9年間を通しての指導方法等についても協議できた。 ・「ふれあいフェスティバル」を実施し、地域と児童・生徒の交流が図れた。	・校区研修会では講師を呼んで研修会を実施する。また、各校の研究授業を見る機会を複数回設けることで、小中9年間を見通した指導方法の改善を図っていく。 ・「ふれあいフェスティバル」は次年度「授業体験」の形で実施を行う。また、まちづくり学習の発表を行うことで、小中の連携を強めていく。 ・今後も各種検定やコンクールに積極的にチャレンジさせていく。	・ふれあいフェスティバルは、小学校、中学校、地域が連携する良い取り組みである。様々な事業で、積極的に地域の方々の参加、協力を促している。村山学園や大南学園のように一体、隣接ではなく学区の小学校も一校ではないのでそもそも一貫教育が成り立つのかという疑問が否めない。 ・一年生の検定、コンクールに対する意識付けを保護者も巻き込んで上がると2年生も変わってくるのではないかと考えます。	B
	【中期】基礎的・基本的事項を向上させ、自己の将来について考える	・各種検定やコンクール等に自主的に取り組ませ、学習意欲の向上と個性の伸長を図る。	各種検定資格を生徒の50%以上が持っている。また、各種コンクールに生徒の50%以上が応募した。						

【別紙】